

平成22年度  
筑波大学法科大学院  
[ビジネス科学研究科法曹専攻]  
(専門職学位課程) 入学試験

論文試験問題

(150分)

受験番号	氏名

注意事項

- 1) この問題冊子の表紙に、受験番号、氏名を記入してください。
- 2) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 3) 試験開始後、この問題冊子が1～7頁であること、答案用紙が4枚（1枚目；問題Ⅰ－1、2枚目；問題Ⅰ－2、3枚目；問題Ⅱ－1・2、4枚目；問題Ⅱ－3）あることを確認してください。
- 4) 試験開始後、4枚の答案用紙それぞれに、受験番号を記入してください。
- 5) 筆記用具は、鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。消しゴムを使用することができます。
- 6) 下書きは問題冊子の2頁及びその他の頁の余白、裏面を適宜利用してください。
- 7) 問題冊子は持ち帰ることができません。答案用紙とともに提出してください。
- 8) 試験開始後30分間、試験終了前10分間は、退出できません。

問 I 以下の文を読んで次の問いに教えてください。(配点 30 点)

(I-1)

事例 1 と 2 において、どのような「共謀」がなされているかについて説明してください(事例 4 については必要ない)。(配点 10 点)

(I-2)

事例 1、2 及び 4 を参考にして、あなたの周りにおける「他人の自己欺まんを助けるためのうそ」の例を挙げて説明してください。(配点 20 点)

[問 I の文]

出典；チャールズ・V・フォード著「うそつき うそと自己欺まんの心理学」  
(原題：LIES！ LIES！ LIES！) (1996 American Psychiatric Press .Inc.)  
訳者 森英明 (2002 年 4 月 26 日第 1 刷発行) 株式会社草思社

(\*問題文の掲載を省略します。)

(出題者注；見出しを省略し、事例番号を加筆してあります。)

問Ⅱ 以下の文を読んで、次の問いに答えてください（注：そこで取り上げられている法律上の概念についての知識や理解を問うものではありません）。（配点70点）

（Ⅱ－1）

下線部について、「辻教授」がいわんとするところを分かりやすく説明してください。（配点20点）

（Ⅱ－2）

筆者の推測する「非法律家」の疑問①から⑤の各々に対して、あなた自身が法律家であるとすればどのように返答すべきと考えますか。（配点20点）

（Ⅱ－3）

あなた自身が弁護士として以下の文に掲げられた医師から相談を受けたと仮定した場合、どのような点に配慮しつつ、どのように助言するか、具体的に述べてください。（配点30点）

[問Ⅱの文]

（出典；樋口範雄『医療と法を考える－救急車と正義』〔有斐閣、2007年〕161～164頁）

（＊問題文の掲載を省略します。）